

Ⅲ. チーム「子援隊（しえんたい）」

私たちが目指す関市のまちづくりの宣言文

私たちの目指す姿は、「すべての子どもが未来に夢と希望をもてる」という関市です。そのために、「生活の困窮する家庭の子どもの学力向上」という課題に取り組むことにしました。

課題の原因は「塾に行けない、教材が買えない」、「勉強する場がない」、「親が非協力的」ですが、今回は特に、「塾に行けない、教材が買えない」に対して取り組みます。

1. 取り組んだ活動

1. 講演会の実施

「岐阜における子どもの貧困と学習支援」

日時：平成28年6月18日（土）13:30～15:00

場所：わかくさ・プラザ総合福祉会館3階

講師：中川健史さん（一般社団法人ぎふ学習支援ネットワーク共同代表、NPO法人仕事工房ボボロ理事長）

内容：この地域においても子どもの貧困の課題があることを市民に理解してもらうこと、そして、7月の学習支援のボランティアを募集することを大きな目的として実施しました。当日は、定員を越す参加者が集まり、関心の高さとともに、会場は熱気で包まれました。

参加者：62名（目標60名）達成率103%

ボランティア参加表明 7名（+検討中が5名）

募金額：22,791円（のちにさらに個人の方から30,000円の寄付がありました）

2. 夏休み宿題お助け教室の実施

日時：平成28年7月26日（火）～29日（金）9:00～15:00

場所：わかくさ・プラザ学習情報館2階和室

対象：関市内の要保護、準要保護の家庭の小中学生

20人程度→28人へ定員を拡大して実施

対象生徒約500世帯へ案内文を配布

内容：夏休みの宿題、自主学習、体験教室等

スタッフ：教員OB、市民ボランティア

参加者：28名（小学生26人、中学生2人）参加申込は62件

ボランティア参加：31名（のべ62人）

2. 提案した内容と行政からの回答

提案1

関市における貧困家庭の数を把握する「相対的貧困率」の調査をしてください。

概要

関市における貧困家庭の数を把握する「相対的貧困率」の調査をしてください。

行政からの回答

貧困率の算出には、現時点では調査方法などについて確立されておらず、自治体間の比較ができません。貧困率を算出する考えはございません。要保護・準要保護や生活保護などの数は把握しております。

提案2

学習支援を実施してください

概要

定期的（週1回、2回程度）な学習支援を実施する。

定期的の実施していくためには、今回のようにボランティアのみでの運営は難しいと考えます。関市として予算化し、実施していただく必要があります。

市と今回のチームメンバーとボランティアメンバーの中から、今後も関わっても良い人でプロジェクトチームを発足し、内容を検討していくのはいかがでしょうか。

行政からの回答

当面は、活動を行っていただける市民団体を、今年度末募集のいきいき市民活動助成金（関市との協働事業）で支援しながら、将来的には、市民団体やNPO法人、社会福祉協議会等に委託することも検討したいと考えています。また、文部科学省が進める生活困窮世帯の子どもの学習支援事業「地域未来塾」が各小学校区単位で取り組めるよう地域委員会と連携し、活用を検討するなど、市として学習支援政策の方向を定めます。

提案3

子ども食堂を実施してください

概要

学習支援に合わせて、全国的に広がっている子ども食堂を実施する。

行政からの回答

市として具体的な支援事業はありませんが、実施する市民団体が発足した際は、補助制度、場の提供などの支援策を検討のうえ実施したいと考えております。